

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森
第1・3日曜日



知足の森
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.625-626

雨の定例活動日は高校生が探究活動の報告会をしました

【定例活動報告】

報告が遅くなりましたが、昨年10月、小金井市のプレーパーク（東京学芸大学内）にて「おいしい楽しい森の誘い～薪割り、薪切り、薪ご飯～」というタイトルのイベントを開催いたしました。あいにくの雨天にもかかわらず、多くの小学生と保護者、スタッフが参加し、充実した時間を過ごしました。イベントでは、薪割りや丸太切り、薪料理などを通じて、自然との触れ合いや共同作業の楽しさを体験していただきました。参加者は、自分たちで切ったり割ったりした薪を使ったかまど炊きのご飯と燻製したソーセージ、ベーコン、ちくわ、チーズ、卵を堪能し、丸太をノコギリで切ってコースターを作り、レーザー加工機で刻印する体験を楽しみました。薪割り機やキンクラも好評で、多くの参加者が薪割りに挑戦しました。使用した

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・



丸太や薪は、普段の定例活動で間伐したものであることを参加者へ紹介させていただき、このイベントを通じて、森の活動の重要性を再確認し、参加者がより深い理解と関心を持つことができたと感じています。今後も間伐材を利用したイベントを定期的に企画していきたいと考えています。今回のようなイベント以外に例えば、グリーンウッドワークなどでバターナイフやスプーン作りのワークショップなど、参加者が30分以内で完成させる方法を工夫しながら実施できるよう準備していきたいと思ひます。

直近の活動報告、2月6日には、孫山登山道の整備を実施いたしました。倒木の除去や立ち枯れ木の伐採など、安全な登山道を確保するための作業を行いました。急勾配の登山道の整備は大変でしたが、無事に完了し地域への貢献を果たすことができたと感じています。

湯元 啓之 (本会、理事)

【定例活動報告】 知足の森

今日は天候が悪かったので、活動は午前中のみでした。かどやさんの2階で東京学芸大学附属高校2年生による探究活動内容の説明をして頂きました。RAI(定点カメラ)を用いたシカ観察の探究を話して頂き参加者がそれに質問をする、という流れでした。神奈川県はシカの頭数把握のために区画法(目視でカウント)、糞塊法(糞の数で推測)を採用しているが効率性や正確性が不十分な点があり、明確な分析をするために定点カメラを用いたと聞き、青根や畑、浄水場の柵の前後など、様々な条件の地点に置いて研究を進めており、シカの頭数データをみると、夏期よりも冬季の方が頭数が多く出産時期と関係があること、柵の前後では柵の後ろの方がシカの頭数が少ないことから柵にシカ避け効果があることが分かったという成果を話してくれました。私も高校に入り探究活動を進める予定なのでこうして先輩方の発表を聞いて大変勉強になりました。

熊谷 美来 (GTE LAB 中学3年女子)

今日は3つに別れて木を切りました。私の班は、木をロープで引っ張るとき引っかかり、根元もおれちゃったので、チェーンソーで切り、引っ張りました。次からは、場所や倒れる向きを正確に見て作業をしようと思ひました。最後は丸太を下に運び、午前の作業は終わりです。午後は東屋の竹の整備に行きました。そこでは、木の間に生えている竹を切る作業で、今は竹が育ちすぎて木が大きくなならないという問題がありました。竹は2月くらいに切ること、切り口を水が入るようにすることで、竹の成長が遅くなったり、枯れたりすると教わりました。また、竹は根元で切るのではなく、長さを残して切ること、枯れたときに引っ張るだけで抜けると言うことも教わりました。実際に竹を切ってみて、木より切りやすいのですが、最後の方で裂けてしまいました。節を取り、小さく切って、山にしました。整備前は竹がボウボウで汚かったのですが、整備後はとてもキレイになりました。

中塚 葵 (GTE LAB 中学1年女子)

今日は、午前はいつも通り間伐の作業をして、午後は東屋の近くの竹林の竹を切りました。「切るよー」や「危ないよー」などの声掛けを心がけ、相手を危険にさらさないことが必要でした。このことから、複数人で同時に同じ場所で作業をするのは、みんなとよくコミュニケーションしていくと、比較的安全に作業をすることが出来るようになることができました。

みんなで約1時間半ほど竹を切り、東屋にもどりました。竹林があった方を見ると、作業前は竹が生い茂っていた場所が、作業後は見えなかった道が見えるようになっていて、自分たちがやったという達成感でいっぱいになりました。これこそ、何かをやることの醍醐味だと思ひました。

辻本 紗弥花 (GTE LAB 中学2年女子)





桜井尚武の 森のコラム

「スギ(*Cryptomeria japonica*) その2 花粉問題」



図1 スギ雄花 (20101211 茅ヶ崎里山公園) と若い果実 (200900806 嵐山_相模湖)

サクラの花の咲く時期はスギ花粉の飛散が盛んな時期と重なり、花粉症に悩む人にはつらい時期です(図1)。花粉症は特定の植物の花粉にアレルギー反応を起こし耳鼻咽喉科系を主に抗原抗体反応を起こして大変つらい対応を迫られることが多い深刻な病です。1964(昭和39)年に日光地域でスギ花粉のアレルゲンが原因と特定された症例が生じて社会的問題と認識されるようになりました。その後の耳鼻咽喉科医系の関係者等による調査では日本人の有病率は1998(平成10)年の16%から増加し続けて2019(令和元)年には39%に達したと推定されているそうです。林野庁は1987(昭和62)年から花粉動態調査を行っていて、雄花形成時期の6~7月の日照時間が長く気温の高い日が多いと花粉量が増えることが解ってきました。花粉が大量発生した年の翌年は少ない傾向があることも観察されました。環境省も2004(平成16)年から着花量調査を始めましたが最近取止めたようです。花粉を大量に出すスギ自体を無くすべく、無花粉スギ、少花粉スギ、これらを生み出す特定母樹の開発も進んでいて(図2)、普及・配布態勢が充実してきていますので、林業現場で苗木をどんどん作り植え替えを積極的に進めて欲しいところです(以上は2024年版森林林業白書より)。

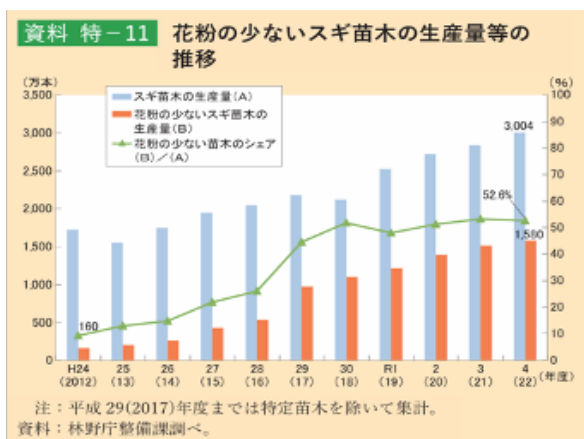


図2 花粉の少ないスギの生産が進んでいる
2023年度 森林・林業白書

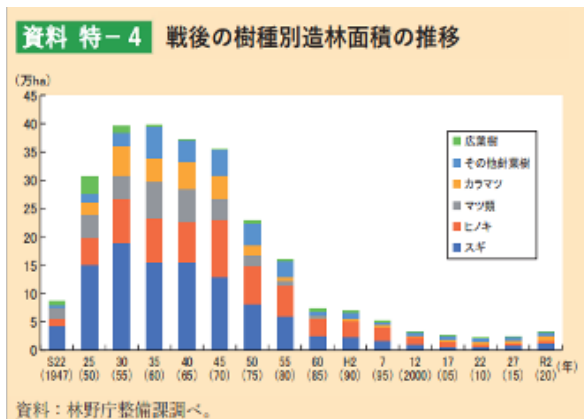


図3 戦後に植えられた樹種の推移
50年前以前にスギが多く植えられていて現在の花粉源になっているのか 2023年度 森林・林業白書

第二次世界大戦で荒廃した日本、特に空襲で破壊され燃やされた住宅を作るべく各地で家を作る木材生産が国家事業で進められました、といっても種を集め苗木を育て植え付けて家を作れる大きさにまで育てるので時間が掛かります。この時一番成長のいい植栽材料としてスギが選ばれました。スギは山裾(山麓)の土壌条件のいいところで一番成長がよいため、人家に近い雑木林や北方日本の山地を覆っていたブナ林、西南日本のシイカシなど常緑広葉樹林の岩場や崖など以外の所がスギ林にされました。勿論、適地適木の言葉通りスギ以外の樹種の適するところにはヒノキやマツ、カラマツ、トドマツ、エゾマツなどが植えられたのです。人の住むところ、里地は土壌条件のいいところが多いので人家の近所に多くのスギが植えられたのも、スギ花粉が身近に多くなる理由になるでしょう(図3)。

桜井 尚武 (本会、会員)

【活動報告】 森の絵本の読み聞かせ活動をしました

今日は、立川第二小学校に読み聞かせをしに行った。結論を言うとりハーサルもあまりせず本番勝負だったが、自分たちなりに工夫して読み聞かせをすることが出来たと思う。時に、読み聞かせを聞いてくれない子もいた。それでも、諦めたりせず、聞いてくれている人達が何かの気づきを感じ取ってくれたらいいと思いながら続けることが出来た。そして、その場の雰囲気温かくするような読み聞かせをすることが出来たと感じる。また、小学生のような小さい子達だけでなく、地域の人達との関わりも、この読み聞かせをする事で持てたと思う。私は直接ボランティアのような経験をした事が無かったので、その世界には何が広がっているのか知らなかったし、分からなかった。しかし、今日、そのような経験を出来たことが本当に良かった。今日、経験として積んだことを忘れずこれからに生かしていきたい。

倉林 果音 (GTE LAB 中学1年女子)

今回読んだ本は「クマと森のピアノ (ポプラ社)」「木になろう! (評論社)」「100さいの森 (講談社)」です。



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社)東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社)さがみ湖 森・モノづくり研究所



緑の募金



一般財団法人
セブン-イレブン
記念財団



SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM



フォレスト
サポーターズ

楽しい森林づくり推進国民運動
www.mori-zukuri.jp